

外為ウィークリービュー I 北米編

先週までの為替相場のレビューと、今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2011/05/23

株・商品・欧州債務問題が引き続き波乱要因

通貨ペア	基調		ページ数
ドル/円	➡	米経済の強さを確認する流れが続く 予想レンジ: 80.80 ~ 83.00 円	2-4
カナダ/円	➡	不安定な原油価格睨みで・・・ 予想レンジ: 81.80~ 85.00 円	5-6
経済指標 カレンダー	一週間の予定を一覧で表示		7-8

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

USD/JPY

ドル/円 5/16～20の主な推移

※4時間足



5/16 Monday	8時50分に発表された日本の3月機械受注が前月比+2.9%と予想(-10.0%)を大きく上回る伸びを見せたことで、朝方にドル/円は80.63円まで円高が進行したが、仲値公示に向けたドル需要への思惑によってすぐに反発した(①)。しかし、81円前後では上値の重さが目立ち、欧州市場に入ると上げ幅を縮小。NY市場でも米国債利回りの低下を受けてジリ安傾向が続いた。
5/17 Tuesday	仲値公示に向けたドル需要や、前日に報じられた「武田薬品工業によるスイス製薬大手ナイコメッド買収」などについての思惑から、朝から円売り優勢となった。さらに、正午前に「東芝がスイスのスマートグリッド関連企業ランディス・ギアを買収」と報じられ、欧州通貨に対して円安が急激に進むと、ドル/円は一段と上昇し、欧州市場にかけて81.77円まで値を伸ばした(②)。しかし、その後は上値が重く、21時30分に発表された米4月住宅着工件数が52.3万件(予想:56.9万件)、米4月建設許可件数が58.5万件(同:59.0万件)、22時15分に発表された米4月鉱工業生産が前月比±0.0%(同:+0.4%)と、全て予想を下回る結果になると、ドル/円は値を下げた。
5/18 Wednesday	朝方、81.50円付近で上値が重かったことを受け、前日に引き続き本邦企業の海外企業買収に向けた円売りがあることを期待していた一部の参加者が円の買い戻しに転じたことなどもあり、ドル/円は下落。また、夕方にポンド/円が大幅安になると、ドル/円は連れ安となり80.94円まで値を下げた(③)。しかしその後、米国債利回りが上昇すると、ドル/円は反発。27時に発表されたFOMC議事録では、「ほとんどの委員は資産売却の前に政策金利を引き上げることが望ましいとした」「政策正常化への第一歩はモーゲージ担保証券(MBS)の売却」などと記されていた。同時に「(政策正常化シナリオについての議論は)近く正常化に向けた動きが始まることを意味しない」とされていたが、量的緩和第3弾を考慮せず、出口戦略を見据えた内容だったことを受け、発表後のドル/円相場は直後は乱高下しながらも、引けにかけてはドル高が進行した。
5/19 Thursday	夕方に対ユーロでドル高が進むと、ドル/円でも連れてドル買い優勢となった。82.00円目前で上値が重く推移するも、21時30分に発表された米新規失業保険申請件数が40.9万件と市場予想(42.0万件)よりも良好だったことを受けて82.23円まで上昇した(④)。しかしその後は失速し、23時発表の米4月中古住宅販売件数(結果:505万件、予想:520万件)、米5月フィラデルフィア連銀景況指数(結果:3.9、予想:20.0)、米4月景気先行指数(結果:-0.3%、予想:+0.1%)と軒並み予想を下回る結果になると、米国債利回りが急低下し、ドル/円は81.45円まで連れ安となった。
5/20 Friday	ロンドン8時(日本時間16時)のフィキシング(値決め)に絡む思惑からドル/円は81.86円まで上昇するも上値は伸びず、ユーロ/円の下げに連れて81.48円まで軟化。しかし、81円台半ばでは底堅く、動意を欠く展開が続いた。なおこの日、日銀が金融政策の現状維持を決定し、西村副総裁は前回主張した追加緩和策を主張しなかったが、市場では特に材料視されなかった(⑤)。

巻末の特記事項を必ずお読みください。

USD / JPY

上昇要因(ドル高・円安)

- ・米政策金利の早期引き上げ観測
- ・米長期金利の上昇
- ・米金融緩和策の巻き戻し観測
- ・日本の財政悪化懸念
- ・日銀による追加金融緩和への期待
- ・(本邦およびG7による)円売り介入

下落要因(ドル安・円高)

- ・米超低金利政策の長期化観測
- ・米長期金利の低下
- ・外貨準備通貨としてのドル需要の減退
- ・米財政赤字悪化懸念の高まり
- ・米追加金融緩和観測の台頭

今週の見通し

今週のドル/円相場は、各種手掛かり材料を眺めながら、ジリ高基調を保てるかが焦点だ。

先週発表された米連邦公開市場委員会(FOMC)議事録によって、市場では米国の金融緩和策状態からの出口戦略が意識されつつある。しかし、当面は緩和状態が続くことも併せて意識されており、基本的には経済指標の結果を確認しつつ、経済の強さをはかっていくこれまでと同様の展開が続くそう。予想よりも良好な経済指標結果が続けば、早期出口戦略入りの思惑などによりドル高に振ると見られる一方、経済回復の鈍化を示す材料にはドル安で反応すると考えられる。

今週の米国では、24日に4月新築住宅販売件数や5月リッチモンド連銀製造業指数、25日に4月耐久財受注、26日に週次の新規失業保険申請件数や第1四半期国内総生産(GDP)・改定値、27日に5月ミシガン大消費者信頼感指数・確報値や4月中古住宅販売成約など、24日以降は毎日のように経済指標の発表が予定されている。それぞれの結果を眺めつつ、米国債利回りや米国株価の動きを確認しながらドル/円は取引されよう。また、引き続き欧州債務問題を背景に不安定な動きとなっているユーロ相場や、原油価格などの動向も波乱要因として確認しておきたい。

ポイントは「82.00円台前半」の攻防になる。先週、一時82.23円まで上昇する場面があったが、その日のNY市場中に81円台に押し戻されてしまった。81円台半ばでは買い支える力も強いことが確認されているとは言え、今週も82.00円台前半の上値の重さが払拭出来なければ、一旦大きく値を下げる可能性も否定できない。一方、この上値の重さを払拭出来れば、今度は82.00円をサポートラインに上値を試す展開になるとみる。(ジェルベズ)

(予想レンジ: 80.80~83.00円)

USD/JPY

テクニカル分析

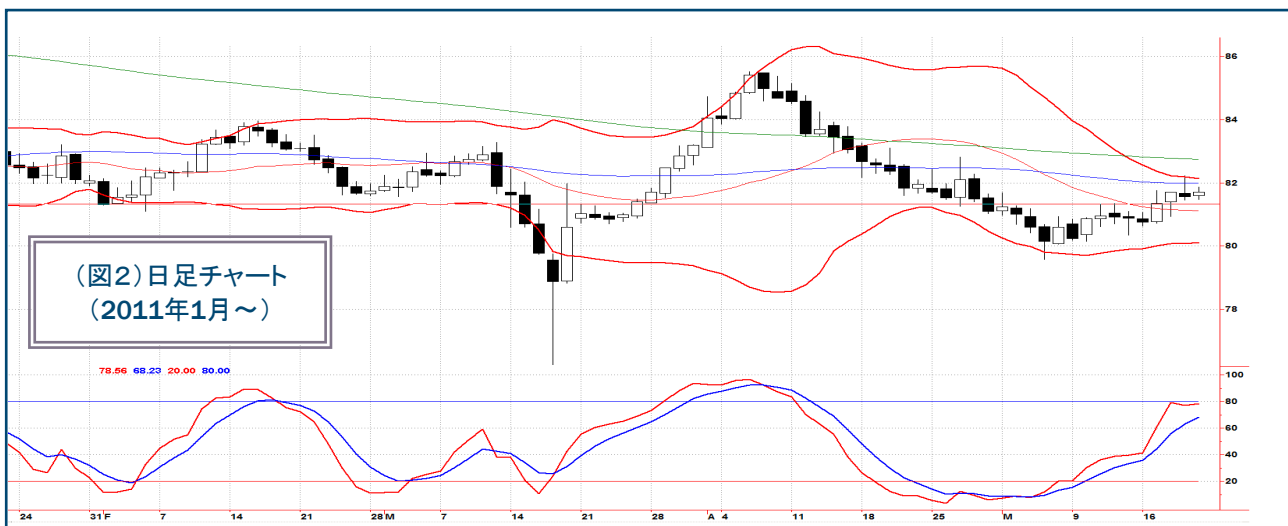
●ドル/円 5/20週足引値:81.70円(移動平均、ボリンジャーバンドから見た相場展開)

先週は、高値82.23円～安値80.63円と1円60銭の値幅の一週間となった。

先週は80円台後半で取引が始まり、4月28日以来の82円台を見たが、そこでは上値が重く定着せずに81円台後半に戻された。週末の引値81.70円は、20日線(81.12円、5/20)を上回るが、200日線(82.74、5/20)、60日線(81.99円、5/20)、40日線(82.26円、5/20)を下回っている。日足チャート上部のボリンジャーバンド(5/20時点)は上限が82.13円、下限が80.10円であり、バンドの上限は下落し、下限は緩やかに上昇と、バンド幅は縮小している。

週足チャート(図1):先々週に続き、先週も陽線が出ており、これまでにドル/円を売り込んだ分の返して上昇の動きが見られる。今週で上げの3週目。先週の高値を超えて上昇の期待が高いが、しっかりとした上昇の動きになるかどうか見ていきたい。

日足チャート(図2):先週は少しずつ下値を切り上げての上昇となっているが、ドタンバタンの動きの中の結果的な上昇であり、今週は値幅が出ることを期待したい。5日線(81.41円、5/20時点)が上向きであることから、今は上昇の方向に分があるかもしれないが、それでも82.50円を大きく超えて定着するような本格的上昇にはなりにくいと思われる。80.80～82.80円(岡田)



巻末の特記事項を必ずお読みください。

CAD/JPY

カナダ/円 5/16~20の主な推移



5/16 Monday	欧州時間に入り時間外のNYダウ先物が下げ幅を拡大した事や、NY原油先物が97ドル台に下落した事を受けてカナダドル売りが強まると、カナダ/円は82.65円の安値を付けた。(①)しかしその後のNY時間には現物の米国株が堅調に推移した事やNY原油先物が99ドル台に反発した事を背景にカナダ/円も買い戻された。
5/17 Tuesday	日中は、前日に報道された武田薬品工業によるスイス製薬企業の買収に絡む円売り・外貨買いの思惑からユーロ/円が上昇した事につれてカナダ/円も84円台まで上昇した。しかしNY時間に入り、NYダウ平均株価が一時160ドル超下落し、NY原油先物も95ドル台に下落した事を受けてカナダドル売りが強まると、カナダ/円は83.07円まで下落した。(②)
5/19 Thursday	前日の米連邦公開市場委員会(FOMC)議事録で、金融緩和の「出口戦略」に関する言及が見られた事を背景にドル/円の上昇地合いが続く中、米新規失業保険申請件数が予想を下回る好結果となるとドル/円が一時82.20円台まで上昇。これにつれてカナダ/円も上昇し、84.97円の高値を付けた。(③)しかしその後、米4月中古住宅販売件数や米5月フィラデルフィア連銀景況指数、米4月景気先行指数が軒並み悪化した事を受けてドル/円が急落すると、カナダ/円も84.04円まで下落した。
5/20 Friday	加3月小売売上高が前月比±0.0%と、事前予想(+0.9%)を大きく下回った事に加え、ノルウェーによるギリシャ支援融資の一時停止や、格付け会社によるギリシャの格下げを受けて欧米株安が進行し、リスク回避ムードが強まった事を背景にカナダ/円は83.63円まで下落した。(④)しかし、その後は一時96.00ドルまで下落していたNY原油先物が99ドル台まで反発した事を手掛かりに、カナダ/円は84.00円台を回復した。

上昇要因(カナダドル高・円安)

- ・世界経済回復期待の高まり
→リスクを取ることへの積極性が増す
- ・カナダ中銀の追加利上げ観測
- ・原油など資源価格の上昇
- ・日銀の追加金融緩和への期待
- ・(本邦及びG7協調による)円売り介入

下落要因(カナダドル安・円高)

- ・世界経済の回復期待の後退、先行き懸念
→リスクを取ることに消極的になる
→日米(主要国)株価の下落
- ・原油などの資源価格の下落
- ・カナダ中銀の追加利上げ観測の後退
- ・中国など新興国の引き締め観測

巻末の特記事項を必ずお読みください。

CAD/JPY

今週の見通し

先週のカナダ/円相場は82.65円～84.97円のレンジで推移し、週間の終値ベースでは、約0.7%の上昇(カナダドル高・円安)となった。ただ、原油価格が足元で不安定な値動きとなっており、これにつれてカナダ/円も乱高下するなど方向感の出にくい値動きとなっている。今週はカナダでは重要な経済指標の発表の予定はなく、カナダ/円相場は引き続き原油相場や主要国株価の影響を色濃く受ける事になりそうだ。特に、新興国のインフレ懸念や米国の景気減速に対する懸念から、原油価格は不安定な値動きが続く可能性が高く、原油価格の下落局面では先進7カ国・地域(G7)の中で唯一の資源国通貨であるカナダドルにも下落圧力が掛りやすい。25日に発表される本邦4月の通関ベース貿易収支は事前予想では大幅な赤字となっており、円売り材料となる可能性もあるが、新興国のインフレ懸念や米国の景気減速に対する懸念がくすぶる中では日経平均株価の下落要因となりやすく、リスク・オン型のカナダ/円上昇にはつながりにくいだろう。(神田)

(予想レンジ:81.80～85.00円)

テクニカル分析



●カナダ/円 5/20週足引値:83.92円(日足、移動平均、ボリンジャーバンドから見る相場展開)

カナダ/円は68.35円(2009/5/20安値)から94.45円(2010/04/26高値)へと26.10円上昇したが、その後は安値78.40円(2010/08/24)⇒高値85.58円(3/10)⇒安値77.60円(3/17)⇒高値89.49円(4/08)となっている。取引値は200日線(82.83円、5/20)よりも上値に位置しているが、60日線(84.80円、5/20)や20日線(84.38円、5/20)を下回っている。ボリンジャーバンドは5/20現在、上限86.46～下限82.31円であり、バンドは上限、下限ともに下落している。4/08に直近高値の89.49円を見てから下落の流れとなり、5/05に82.30円の安値を見たがそこからは揉み合いに入っている。先週は60日線がしっかり上値抵抗線となった。下値は200日線に支えられている。あまり下落しなくなった動きを見て、85～86円への上値トライはあるかもしれないが、目先は上値を追いかけて買い進む地合いでもなく、上昇してもゆっくりではないだろうか。

上値ポイントは①84.38円(20日線、5/20段階)、②84.80円(60日線、5/20段階)、②であり、下値ポイントは①82.83円(200日線、5/20段階)、②82.30円(5/05安値)である。(岡田)

経済指標カレンダー (5/23~26)

日付	時刻	注目度	経済指標、イベント等	前回	予想
5/23			トロント休場(ヴィクトリアデー)		
(月)	14:00		(日) 3月景気動向指数・改訂値 [先行CI指数]	99.5	——
	14:00		(日) 3月景気動向指数・改訂値 [一致CI指数]	103.6	——
	14:00		(日) 5月金融経済月報・基本的見解	——	——
5/24	15:00		(独) 第1四半期GDP・確報 [前期比]	+1.5%	+1.5%
(火)			(独) 第1四半期GDP・確報 [前年比]	+4.9%	+4.9%
	15:00		(独) 第1四半期個人消費 [前期比]	+0.2%	+0.5%
	17:00	◎	(独) 5月IFO景況指数	110.4	113.6
	23:00	○	(米) 4月新築住宅販売件数	30.0万件	30.5万件
			(米) 4月新築住宅販売件数 [前月比]	+11.1%	+1.7%
	23:00	○	(米) 5月リッチモンド連銀製造業指数	10	10
	26:00	○	(米) 2年債入札(350億ドル)	——	——
5/25	08:50	○	(日) 4月通関ベース貿易収支	+1894億円	-7450億円
(水)	08:50		(日) 日銀金融政策決定会合議事要旨 (4月28日分)	——	——
	15:00		(独) 6月GFK消費者信頼感調査	5.7	5.6
	17:30	○	(英) 第1四半期GDP・改定値 [前期比]	+0.5%	+0.5%
		○	(英) 第1四半期GDP・改定値 [前年比]	+1.8%	+1.9%
	17:30		(英) 第1四半期個人消費 [前期比]	-0.3%	+2.0%
	21:30	○	(米) 4月耐久財受注 [前月比]	+2.5%	-2.0%
		○	(米) 4月耐久財受注 [前月比: 除輸送用機器]	+1.3%	+0.6%
	23:00		(米) 3月住宅価格指数 [前月比]	-1.6%	-0.6%
	26:00	○	(米) 5年債入札(350億ドル)	——	——
5/26	10:30		(豪) 第1四半期民間設備投資	+1.3%	——
(木)	18:30		(南ア) 4月生産者物価指数 [前年比]	+7.3%	+7.1%
	21:30	◎	(米) 5/21までの週の新規失業保険申請件数	40.9万件	——
	21:30	○	(米) 第1四半期GDP・改定値 [前期比年率]	+1.8%	+2.2%
	21:30	○	(米) 第1四半期個人消費・改定値 [前期比]	+2.7%	+2.8%
	26:00	○	(米) 7年債入札(290億ドル)	——	——

経済指標カレンダー (5/27)

日付	時刻	注目度	経済指標、イベント等	前回	予想
5/27	08:01		(英) 5月GFK消費者信頼感調査	-31	-32
(金)		○	(日) 4月全国消費者物価指数 [前年比]	±0.0%	+0.2%
	08:30	○	(日) 4月全国消費者物価指数 [前年比: 除生鮮]	-0.1%	+0.5%
	17:00		(ユーロ圏) 4月マネーサプライM3・季調済 [前年比]	+2.3%	+2.3%
	18:00		(ユーロ圏) 5月消費者信頼感・確報	——	——
	18:30		(スイス) 5月KOF先行指数	2.29	——
	21:30		(米) 4月PCEデフレーター [前年比]	+1.8%	+1.9%
	21:30		(米) 4月PCEコア・デフレーター [前月比]	+0.1%	+0.2%
			(米) 4月PCEコア・デフレーター [前年比]	+0.9%	+1.0%
	21:30	○	(米) 4月個人支出 [前月比]	+0.6%	+0.4%
	21:30		(米) 4月個人所得 [前月比]	+0.5%	+0.4%
	22:55	○	(米) 5月ミシガン大消費者信頼感指数・確報値	72.4	72.4
	23:00		(米) 4月中古住宅販売成約 [前月比]	+5.1%	-1.0%
	未定	○	(独) 5月消費者物価指数・速報 [前月比]	+0.2%	±0.0%
		○	(独) 5月消費者物価指数・速報 [前年比]	+2.4%	+2.3%

※発表時刻は予告なく変更される場合があります。

※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com